

## 答辞

三寒四温のうちに、本格的な春の訪れを待つ今日この日、私たちは平安女学院を卒業します。

振り返ってみると、あっという間の三年間でした。

高校 2 年でのニュージーランド旅行では、たくさんの経験をしました。初めは不安の気持ちもありましたが、現地では言葉が伝わる嬉しさと達成感や、英語の大切さを身に染みて感じる事が出来ました。この間(かん)、ES コースでは受験への様々な取り組みが続き、特に高校 1 年からの学習合宿は勉強、そして自分に対して真剣に向き合う機会、また、励まし合うクラスメイトとのいい交流の場となりました。

高校 3 年になって、一番初めの行事は体育祭でした。今まで教えられる側だったのが教える側になり、責任感とリーダーシップが芽生えました。 集団演技では学年関係なく後輩と協力し合い、みんながひとつとなって素晴らしい演技を創ることができました。後輩たちには感謝の気持ちでいっぱいです。

9月の文化祭は、まさに青春そのものと呼ぶにふさわしい行事でした。良いものを作ろうという思いから、放課後遅くまで残って練習し、どのクラスもやる気に満ち溢れていました。1、2組は「ヘアスプレー」。2クラス合同で行われた演劇は、幕開けから大迫力で一体感を感じさせるものでした。歌にダンス、見ている人も演じている側も楽しくなる、そんな演劇でした。4組は「マンマ・ミーア!」。ミュージカル仕立ての ドタバタラブコメディがクラスの雰囲気と合っていて、会場全体をミュージカルの世界に引き込むような演劇でした。5組は「カルロ」。ストーリーも衣装もオリジナルで5組らしさが感じられ、独特の雰囲気が会場を包み込んだ演劇でした。模擬店や有志も私たちらしい個性あふれるものばかりでした。

そして最後はクリスマスカンタータ。本番ではお客さんと共に、自分たちも感動するほどの雰囲気を創り上げることができました。どの行事においても、衝突や反発があり順調に進んだとは言い難いものばかりですが、みんなが協力し合えたからこそ納得のいく結果になったのだと思います。成功の裏には大きな努力があり、そこで生まれた絆は決して偽りではないことを私たちは忘れません。また、私たちの成長を支えてくださったたくさんの先生や関係者の皆様への感謝の気持ちも決して忘れません。ありがとうございました。

平安女学院で、私たちは他では経験できないことをたくさん経験することができました。毎朝の礼拝は、聖歌が今では口ずさんでしまうほど親しみのあるものになり、チャペルは自然と心が落ち着く場所になりました。今では朝礼のない朝が想像しがたくなるほど、自分の中で朝のひとつときが当たり前のことになっていました。また、女子校だからいつでも

ありのままの自分でいることができました。異性の目を気にすることもなく、いつでも全力で自分らしく過ごせました。後輩たちも、何事にも堂々と自分らしく取り組み、一人ひとりが活躍してほしいと思います。そして、今まで私たちの成長を見守り、平安女学院に通わせてくれた保護者のみなさん、本当にありがとうございました。

あと 10 日経つと東日本大震災から 5 年になります。2011 年 3 月、私たちは中学 1 年でした。

1000 年に 1 度とも言われる大災害を目の当たりにして、日本だけでなく世界中から支援の手が差し伸べられました。

困難のうちにある人たちを助けようという気持ちが誰の胸にも満ちていて、大災害の混乱の中にも、何か新しいものが生まれていくような明るい予感さえありました。

しかし、5 年たった今、世界はそんな気持ちがなくなってしまったかのように、残虐な事や不条理なことが起こり続けています。政治や世界情勢を学ぶたびに、今の国内外には絶望しか溢れていないのではないかと思えるほどです。若者の貧困や北朝鮮のミサイル、各地で起こるテロなど、この先の私たちを不安にさせることばかりが目につきます。

そんな中、この夏の参議院選挙から私たちは初めての 18 歳選挙権を行使できるようになりました。よく分からないからと目を背けて逃げているわけにはいきません。絶望しかない世界を変えるのは私たちです。

5 年前の世界のように人と人が結びつき、支えあう世界にしていくためには私たちが人を思いやり、行動することから始めるしかないのではないのでしょうか。人を思いやって協力し合えば正しい方へ進んでいける、「不断の努力」は世界を変えると信じています。私たちはそれぞれの新しい場で、この先の未来を考え、行動し、社会を担う人へと成長していきます。

最後に聖句を拝読します。 新約聖書 ローマへの信徒への手紙 第 15 章 13 節

“希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和であなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ち溢れさせてくださるように。”

2016 年 3 月 1 日 卒業生代表 尾関 衣世